

# 日本電気通信の父 外務卿 寺島宗則 (松木弘安)

1832(一) 鹿児島県阿久根市脇本に生まれる。

1839(7歳) 養父の松木宗保(雲徳)と長崎へ。蘭学を学ぶ。

1846(14歳) 江戸にて、戸塚静海から医学を、川本幸民から蘭学を修める。

1857(25歳) 薩摩藩主島津斉彬の命により、集成館事業に従事し、写真・ガス灯・電信等の研究や試作に携わる。

1861(29歳) 福沢諭吉らと幕府第一回遣欧使節団に翻訳方兼医師として参加し、病院、学校、電信局を見学。

1865(33歳) 薩摩藩英国留学生を率いて渡英。

1866(34歳) ロンドン発。阿久根に帰着。寺島陶蔵と改名。

1867(35歳) 寺島宗則と改名。

1868(36歳) 明治政府参与。東京-横浜間の電信開設の建議。神奈川県知事就任。国営電信建設の一切を委任される。

1869(37歳) 不平等条約の改定作業にあたる(外務大輔)。

1871(39歳) 長崎-上海間、長崎-ウラジオストク間の海底電線通信が開通し、外国との電信業務が始まる。

1873(41歳) 参議兼外務卿に就任。

1879(47歳) 文部卿に就任。

1881(49歳) 元老院議長に就任。



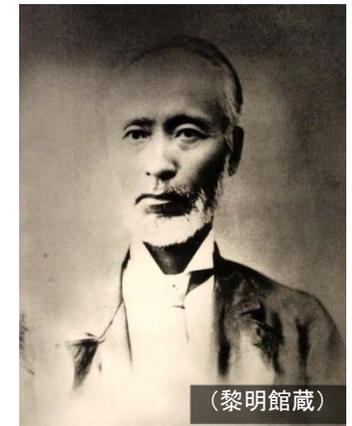
松木弘安(後列右から2番目)



母が弘安の無事を祈った田之神



松木弘安(寺島宗則)旧家 [鹿児島県阿久根市]



寺島宗則 卿